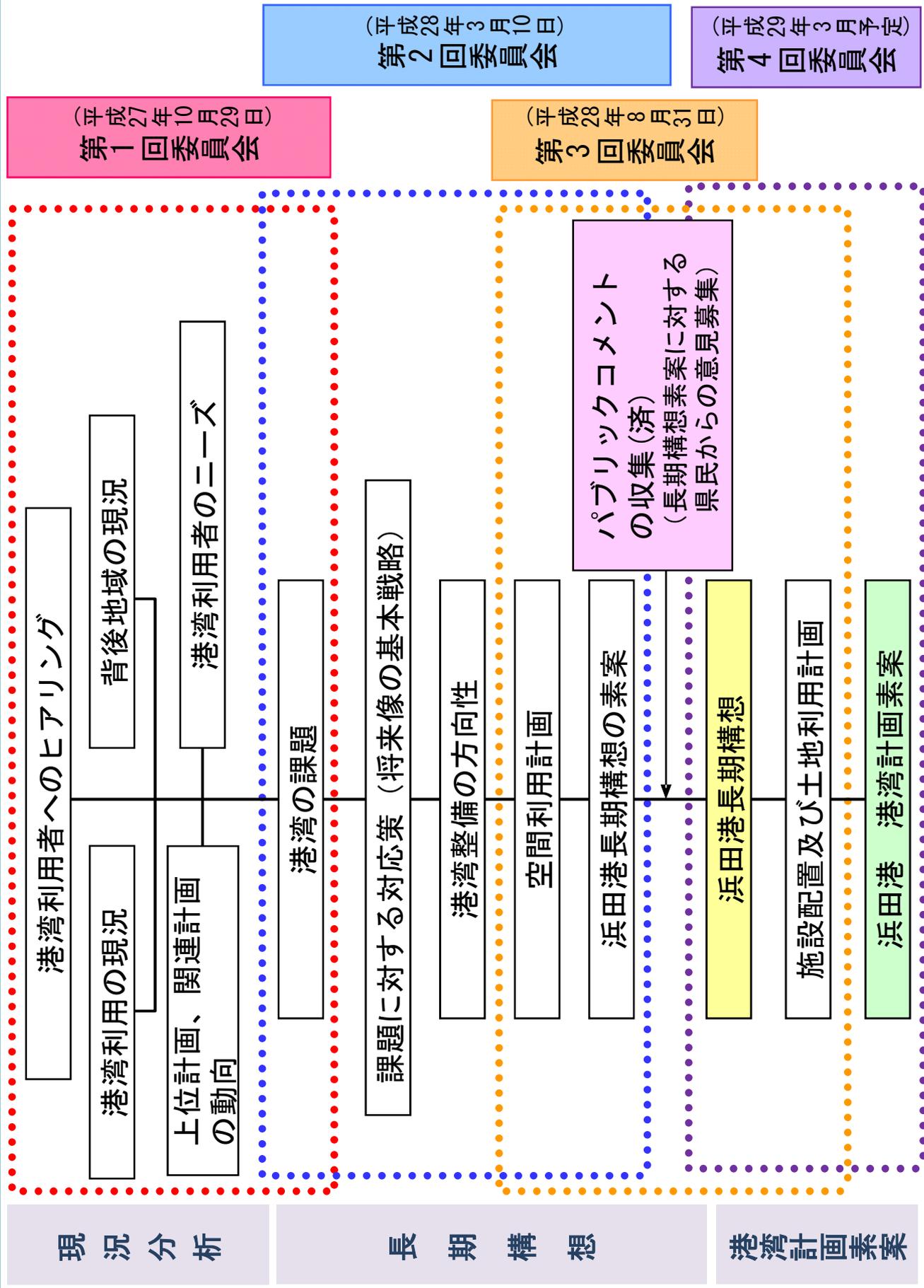


# 浜田港長期構想検討委員会 第3回委員会

平成28年8月31日





# 第1回委員会での主な意見と対応

	意見	長期構想への反映
全般	<p>利用企業に対するきめ細かなケアや、ニーズ調査が必要</p> <p>長期構想ではスケジュールにとらわれず、必要事項を洗い出すことが必要</p>	<p>P.40 戦略1-4(集貨対策の推進)</p> <p>—</p>
物流	<p>大型船に対応した岸壁の水深確保、埠頭用地の拡張が必要</p> <p>PKS、木材チップの保管場所確保に早期に対応するため、長浜地区で暫定利用の対応が必要</p> <p>浜田港内および周辺とのアクセス強化・改善が必要 (福井地区～長浜地区間の接続強化、長浜埠頭から山陰道へのアプローチの確保、工業団地からのアクセス道路の改善)</p> <p>浜田市は水産業が盛んであるが、水産関連貨物の浜田港利用を促進するためには、保税冷凍冷蔵庫等の設備面の充実が必要</p> <p>ロシア貿易は有望であるが、利用しやすい施設利用料等の条件設定や、鮮度を維持できる施設等の設備面の充実が必要</p> <p>荷役の作業効率化を図るため、多目的クレーンからガントリークレーンへの更新が必要</p> <p>LCL貨物(小口混載貨物)サービスの拡充が必要</p> <p>ポートセーブルスの強化を図るには、人材の確保・育成、各主体間での情報共有が必要</p> <p>倉庫利用の需要に対応した保管施設の整備が必要(倉庫の増設、冷凍・冷蔵施設の整備)</p>	<p>P.40 戦略1-1(係留機能の強化) P.41 戦略2-1(新規需要への対応)</p> <p>P.41 戦略2-1(新規需要への対応)</p> <p>P.40 戦略1-5(工業団地との接続強化) P.41 戦略2-2(高速道路へのアクセス機能の向上)</p> <p>P.40 戦略1-2(荷捌き・保管機能の充実)</p> <p>P.40 戦略1-4(集貨対策の推進)</p> <p>P.40 戦略1-4(集貨対策の推進)</p> <p>P.40 戦略1-2(荷捌き・保管機能の充実)</p>
交流	<p>大型外国客船の誘致のためにも、岸壁の水深確保と拡張が必要</p> <p>「みなとオアシス」など、港の賑わいへの対応も必要</p>	<p>P.43 戦略3-1(大型客船の受入環境の充実) P.43 戦略3-1(大型客船の受入環境の充実)</p>

## 第2回幹事会での主な意見と対応

	意見	長期構想への反映
全般	浜田港の「強み」を活かした取組を考えるには、中長期の対外貿易の分析が必要	P.32～ 3章「国内外の動向と浜田港の関わり」を追加
物流	客船岸壁と原木置き場が隣接しており乗客に木材粉による被害を与える可能性があるため、海外・県外客のおもてなしの場として対策が必要であるという課題も追記するべき	P.18 課題1「大型船の寄港需要への対応」に追加
	「埠頭間(福井～長浜)臨港道路の必要性」について、図にコメントを付記するべき	P.22 課題4「福井地区～長浜地区区間の接続強化」に追加
	「スクラップ&ビルドの必要性」について、図にコメントを付記するべき	P.23 課題6「公共岸壁の老朽化」に追加
	1章背後地域の現況(3)交通体系の「島根県の高速交通網」の図は、島根県内より中国地方全体の方が良いのではないか	P.11 背後地域の現況を説明する章であるため県内交通網のままとした
防災	「放置艇対策の必要性」について、図にコメントを付記するべき	P.23 課題7「放置艇の収容」に追加

※第2回委員会前に反映

## 第2回委員会での主な意見と対応(1)

意見	長期構想への反映
<p>将来ゾーニングが短期か長期かがわからない 30年後の絵としては淋しい</p>	<p>P.50 「各地区における施策展開」を<b>修正</b></p>
<p>30年後の浜田港全体の将来像として、物流、交流・生活、防災の横串となるコンセプトが必要</p>	<p>P.37 「図4-1 浜田港の将来像」にコンセプトを<b>追加</b></p>
<p>長期構想の全体イメージはわかるが、何から着手し、どのような段階を踏んで、その結果何を目指すのかがわかりづらい</p>	<p>P.51 「図4-5 浜田港の主な施設整備構想(素案)」を<b>追加</b></p>
<p>工業団地と港の接続強化を長期構想に盛り込んで欲しい</p>	<p>P.5 「図1-2 浜田港周辺に立地する主要企業と工業団地」を<b>修正</b></p>
<p>計画が大きすぎでどこから着手すればよいか見えてこない 中小企業が貿易できるようにするには、現状を把握した上で育成が必要</p>	<p>P.40 戦略1-5「港と工業団地の接続強化」を<b>追加</b></p>
<p>浜田港は需要地・生産基地から遠いという弱点があるため、背後地への企業誘致も必要</p>	<p>P.40 戦略1-4-3「『研究会』を活用したポートセールスの強化、中小企業等の支援」を<b>修正</b></p>
<p>20～30年後に水産業(魚)が貿易にもつなげると良い</p>	<p>P.40 戦略1-4-2「新規取組への支援」に<b>記載済</b></p>
<p>長浜地区の有効活用は、長期でなく短期で取り組んで欲しい</p>	<p>P.41 戦略2-1-1「施設活用による新規需要への対応」 戦略2-1-3「埠頭用地の確保」に<b>記載済</b></p>

※桃：パブコメ前に反映、青：パブコメ後に反映、緑：記載済(変更なし)

## 第2回委員会での主な意見と対応(2)

	意見	長期構想への反映
交流	「交流」と「生活」を同じ次元でまとめられるか(ターゲットとニーズが異なる)	P.43 戦略3-1-3「『みなとオアシス』や『研究会』を活用したみたとまちづくりの推進」を修正
	大型客船が入港した時の受入体制はどうするのか 大型客船による来訪者には浜田(島根県西部)の良さを知らしてもらいたい 長期構想の中でもできることから進めて欲しい	
防災	「緊急輸送道路ネットワーク計画図」の内容を最新に修正	P.46 戦略5-1「緊急輸送道路ネットワーク計画図」を修正
その他		P.28 第2章「島根県総合発展計画 第3次実施計画」を最新(平成28年3月版)に修正
		P.52～ 「用語の解説」を追加

※桃:パブコメ前に反映、青:パブコメ後に反映、緑:記載済(変更なし)

### 長期構想(素案)以外の意見と対応

長期構想以外に対する意見	対応
「集荷対策の推進」の具体的な方策について随時報告が必要	「浜田港拠点化形成研究会(第1回)」の概要を本資料 付属資料1に添付
リーマンショック後の回復の遅れあるいは未回復の理由について、データがあれば提示して欲しい	「リーマンショック前と現在の港湾取扱貨物量」を本資料 付属資料2に添付

## パブリックコメントの概要

調査方法	(1) インターネット(島根県ホームページ) (2) 縦覧公告 ・ 県土木部港湾空港課 ・ 県政情報センター ・ 各県政情報コーナー ・ 県浜田港湾振興センター ・ 浜田市役所
公表資料	浜田港長期構想(素案)
意見の募集期間	平成28年4月28日(木) ~ 平成28年5月31日(火)
意見の提出先	島根県土木部港湾空港課
提出方法	電子メール又はFAX
提出様式	任意
意見の件数	1団体、1個人

# パブリックコメントの結果

## 長期構想(素案)の内容に対する意見と対応

	意見	長期構想への反映
物流	<p>熱田、長浜地区の臨港道路の整備については大変評価する 可能であれば、短期で検討することも必要と考える</p>	<p>P.41 戦略2-2-1「福井地区と接続する臨港道路の整備」に<b>記載済</b></p>
交流	<p>子供の未来を想定した企画が重要(子供の郷育の視点)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.海との親水の視点から「体験型の学習の場」として、長く活用されてこなかった水面整理場や熱田海岸の海水浴場の環境整備</li> <li>2.B&amp;G海洋センターの支援や特定非営利活動法人浜田ライフセービングクラブによる海洋学習や環境学習</li> <li>3.漁業関係者による未来を担う子どもたちの水産業体験</li> <li>4.海上保安部による巡視船の体験航海</li> </ol> <p>海上から浜田港の施設を見学する浜田港モニター制度の制定と港湾施設保安体制を作って欲しい</p>	<p>P.44 戦略4-3「地域住民の活動の場づくり」を<b>追加</b> 以下の取組内容を<b>追加</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海岸環境の整備と活用(短期～中期)</li> <li>・水面整理場の新たな活用策の検討(短期～長期)</li> <li>・官民一体となった学習の場の創出(短期～長期)</li> </ul>
防災	<p>防災、減災の面、インバウンドを地域経済に取り込む面、日本海側の高速交通インフラという面等からも、水上飛行機の活用を考える時である</p>	<p>水上飛行機の防災・減災面等への活用については、大学等により研究が進められているが、現時点では実効性が不明確なため今回の長期構想には反映しない</p>

※桃:パブコメ前に反映、青:パブコメ後に反映、緑:記載済(変更なし)

## 第3回幹事会での主な意見と対応(1)

### 長期構想(素案)の内容に対する意見と対応

	意見	長期構想への反映
交流	客船寄港時のおもてなし機能としてCIQ設備が必要	P.43 戦略3-1-1「物流連続ハブスを活用した係留延長の確保とCIQ機能の充実」に修正
その他	高度衛生管理型の「荷捌き所」はあるが、高度衛生管理型の「岸壁」はない	P.9<水産業>3行目 「高度衛生管理型の荷捌き所」に修正
	世界的には20～30年後のコンテナ船は4,000TEUクラスになると言われている	P.19 「図2-5 コンテナ船の大型化」に世界のコンテナ船の大型化に関する資料を追加

※桃:パブコメ前に反映、青:第3回幹事会后に反映、緑:記載済(変更なし)

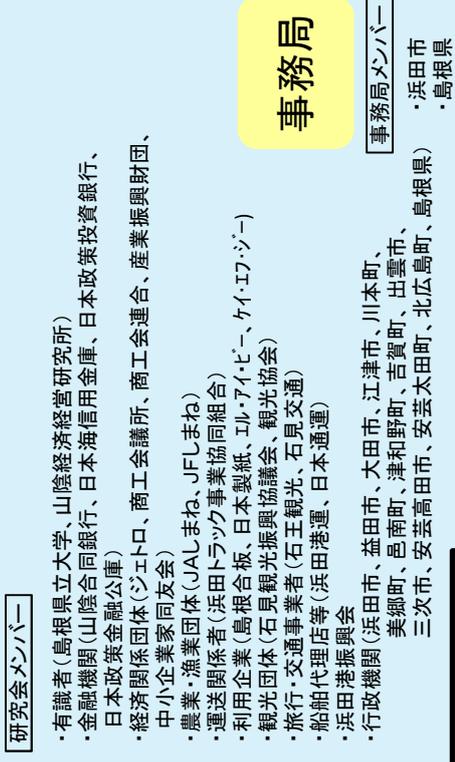
## 第3回幹事会での主な意見と対応(2)

### 港湾計画改訂案(たたき台)に対する意見と対応

意見	対応
長浜地区の新規施設の検討に際しては、老朽化施設の維持管理、港内静穏度の確保の観点も含めて検討していただきたい	港湾計画改訂に向けた検討において考慮する
福井沖の北防波堤は、更に西側に延伸するののか	港内静穏度の検討結果を踏まえて、北防波堤の延伸を検討する

# 付属資料1：浜田港拠点化形成研究会の概要(1)

発展著しいアジアに近い「浜田港」の強みを生かして、石見から出雲、広島県北部に至る広域的な産学金官が連携して、浜田港への集貨対策及びクルーズ客船誘致対策に取り組み組織を設立する。



## [ワーキンググループの役割]: 具体的検討と行動

[ワーキンググループメンバー] 検討課題に応じたメンバーを招集する実働部隊

### 集貨対策ワーキンググループ

#### [検討課題]

- ・国際定期コンテナ船の利用促進
- ・国際定期RORO船の利用促進
- ・国内・国際コンテナ及びバルク貨物の取扱量の拡大
- ・国内他港との連携

#### [具体的活動]

- ・広域的な、利用可能企業等の情報収集
- ・関係者が連携した有望企業へのポートセールス
- ・荷主に対するインセンティブ(補助制度等)の検討
- ・新規貨物の掘り起し など

#### [検討課題]

- ・国内定期航路の誘致(海上輸送網ミッシングリンクの解消)
- ・国内・国際物流の接続による新たな物流ルート確立

### クルーズ客船誘致対策ワーキンググループ

#### [検討課題]

- ・国内・海外クルーズ客船の誘致と継続的な寄港
- ・クルーズ客船の受入に向けた受入環境整備
- ・国内他港との連携

#### [具体的活動]

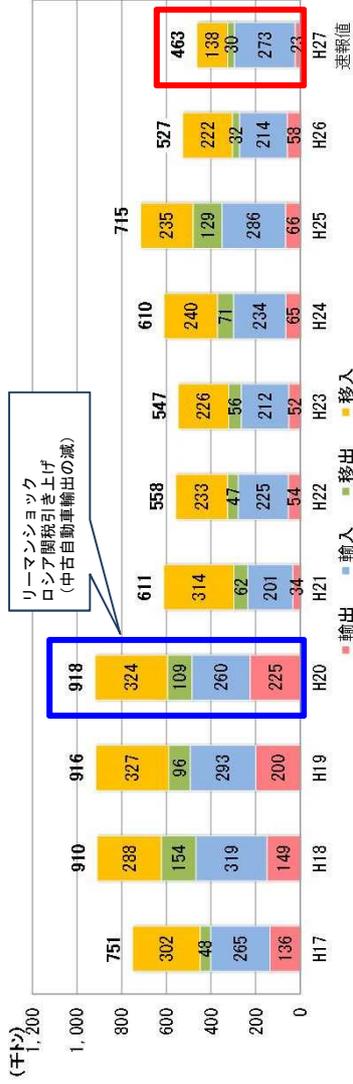
- ・観光資源の掘り起こし
- ・外国語ガイド・地元ボランティアの確保
- ・国内・海外クルーズ客船の誘致活動
- ・CIQの体制整備の検討 など

# 付属資料1：浜田港拠点化形成研究会の概要(2)

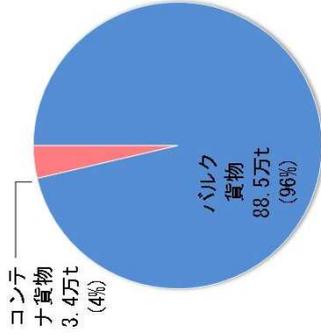
平成28年度スケジュール(案)

区分	4月～7月	8～11月	12～3月
研究会  集荷対策WG	● 立ち上げ  立ち上げ  活動方針 課題の整理	課題の検討  活動の進行管理 課題の検討	H28まとめ H29活動方針決定  ● H28まとめ  H28活動のとりまとめ 課題への対応方針(案) H29活動方針(案)
	利用可能企業の情報収集	関係者が連携した有望企業へのポートセールス  新規貨物の掘り起こし  荷主に対するインセンティブの検討	
クルーズ客船誘致対策WG	立ち上げ  活動方針 課題の整理	課題の検討  活動の進行管理 課題の検討	H28まとめ  ● H28まとめ  H28活動のとりまとめ 課題への対応方針(案) H29活動方針(案)
	クルーズ客船誘致戦略の検討	誘致活動の展開(訪問営業・パンフレット等営業ツール作成)  地域資源の掘り起こし→商品化の検討	

# 付属資料2:リーマンショック前と現在の港湾取扱貨物量

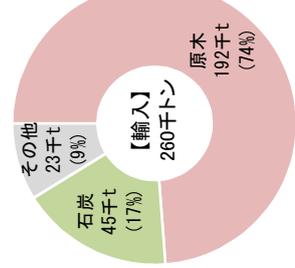
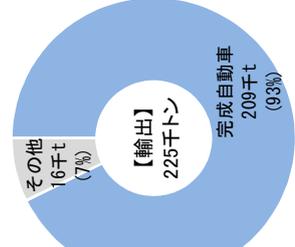


## 【荷姿別】

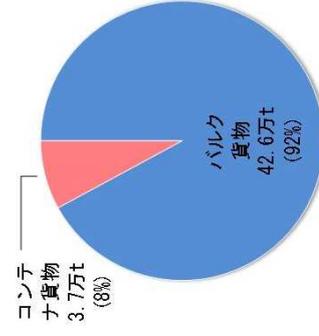
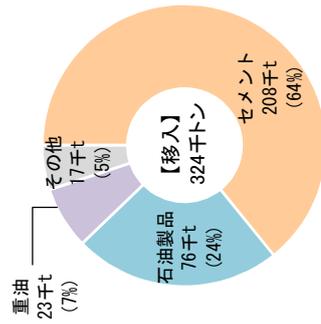
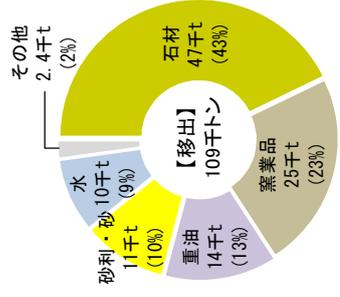


平成20年

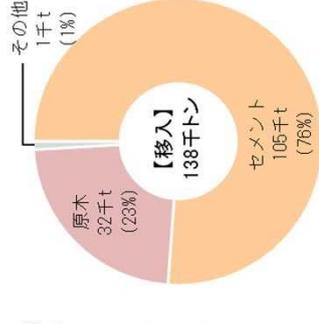
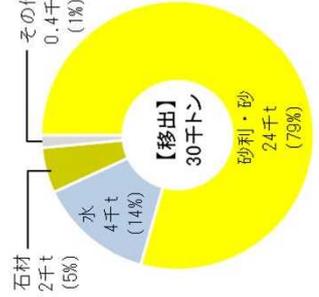
## 【外貨】



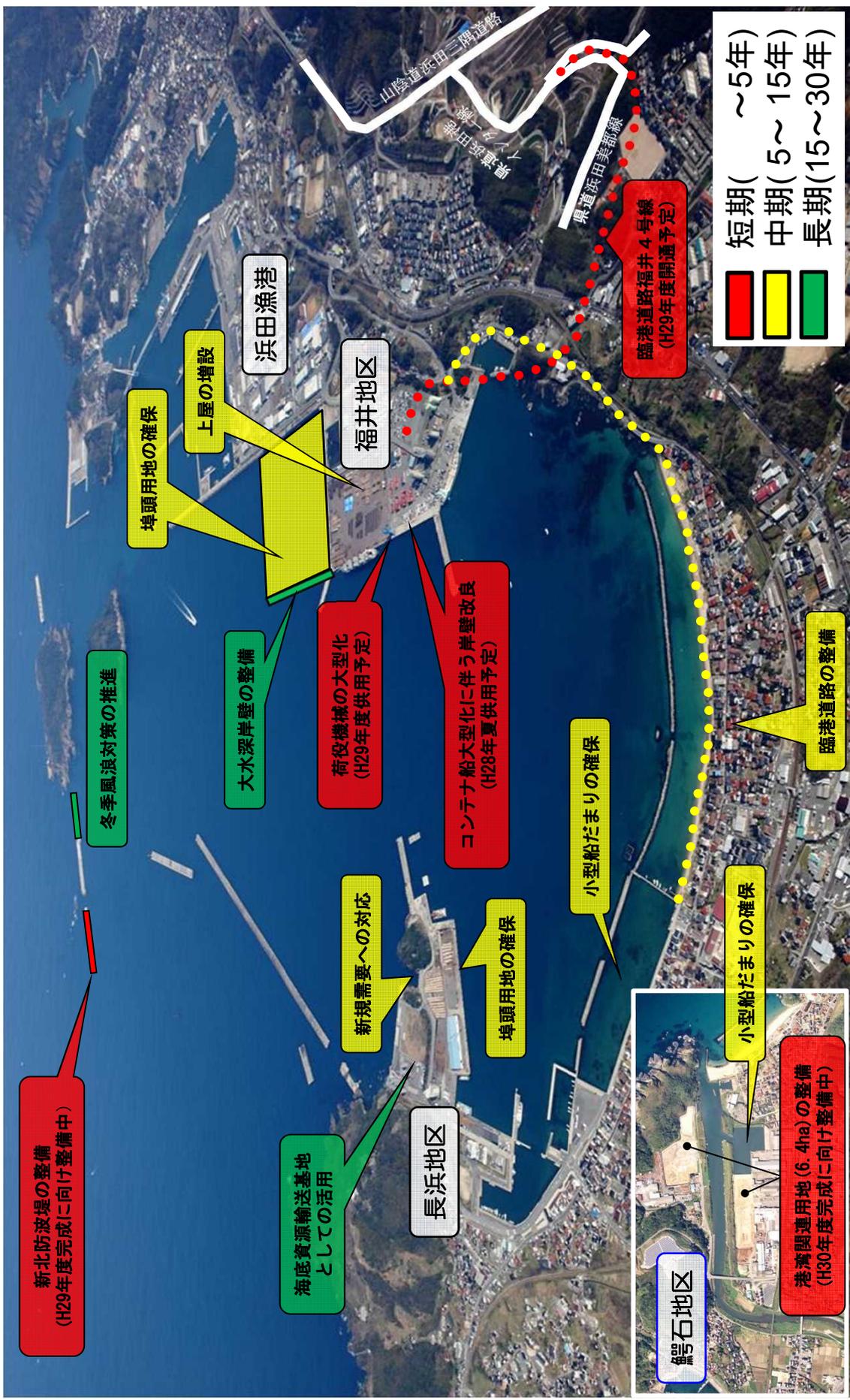
## 【内貨】



平成27年



# 浜田港の主な施設整備構想(案)



# トピックス(1)

## 浜田漁港に高度衛生管理型荷捌所を整備

- ・浜田市は2016年度から、浜田漁港内に高度衛生管理型荷捌所を整備する
- ・2016年度から調査・設計に着手、2020年度までに建設工事を完了する計画、総事業費は約40億円を見込む
- ・全国の特定第3種漁港13港の中で一番取り組みが遅れている浜田港に高度衛生管理型荷捌所を整備することで、生産・流通の高度化を促進し、安全・良質な水産物を全国に提供し、水産業の活性化を促すものと期待される

H28.4.27建設興業タイムス掲載

## 浜田港拠点化へ研究会設立

- ・平成28年5月20日、浜田港を拠点とした物流促進など、港湾振興策について考える「浜田港拠点化形成研究会」の設立総会が開かれた
- ・会員には、官民の計64団体が参加し、島根県と県内10市町のほか、地場の製造業者や金融機関、さらに広島県三次市など同県北部の4市町も名を連ねた
- ・研究会は、取扱貨物量の増加とクルーズ客船の誘致を活動の2本柱に据え、対策を展開していく
- ・6月にワーキンググループを設立し、具体的な協議に入る

H28.5.21山陰中央新報掲載

## 浜田沖で資源埋蔵調査に着手

- ・経済産業省エネルギー庁は、浜田市の北西約130キロの日本海で、石油や天然ガスの埋蔵量を把握する調査に着手したと発表、8月末までで年度内に商業化の可否を判断する
- ・経産省の探査船が2011年度に実施した調査で有望な地層があると判断、2015年8月に海底の地形を調べた上で調査地点を決めた
- ・国内のエネルギー供給の安定化を目的とした日本海での試掘は1961年に始まり、島根沖での調査は初めて

H28.6.8山陰中央新報掲載

## トピックス(2)

### 山陰周遊「縁の道」認定

- ・国土交通省は、各地方の観光名所をパッケージで訪日外国人客に売り込む「広域観光周遊ルート」として、山陰インバウンド機構(米子市末広町)が申請していた「縁の道～山陰～」を認定した
- ・鳥取、島根両県と山口県萩市までを結ぶルートで、同機構は縁結びや神話をテーマにした旅行商品づくりに着手し、訪日客誘致の取り組みを本格化させる
- ・山口県側までを広域につなぐため、萩・津和野イメージアップ協議会や山口県とも連携する
- ・海外向けのPRなども強化し、東京五輪・パラリンピックが開かれる2020年時点に外国人宿泊者数を現状の2倍の延べ25万人に増やす

H28.6.15山陰中央新報掲載

### 浜田港運株式会社 浜田港福井地区に倉庫を新設

- ・浜田港運(株)(浜田市長浜町)が、浜田港福井地区に、床面積約2千㎡の倉庫を設置する
- ・最大約2千トンの物資を収容可能で、国内製造業者の輸向け貨物等を保管する
- ・新倉庫は岸壁近くに建設、貨物をそのままクレーンで船に乗せられるため、コスト低減につながる
- ・県内外で売り込み、新規取引の拡大を図る

※新築倉庫の位置図、イメージ図は17,18ページ トピックス(4)(5)参照

H28.6.28山陰経済ウィークリー掲載

### 株式会社ケイ・エフ・ジー イスラム圏展開を本格化

- ・2016年6月、ミネラルウォーター製造・販売の(株)ケイ・エフ・ジー(浜田市金城町下来原)が、イスラム教の戒律に則した食事・商品を証明する「ハラール認証」の中でも審査が厳しく難関とされる、マレーシア政府公認ハラール認証JAKIM(ジャキム)を取得した(ミネラルウォーターでは日本企業初)
- ・同社は既に現地に支社を立ち上げており、中近東や東南アジア諸国連合(ASEAN)への販路拡大に向けた営業拠点とし、主に富裕層に向けて、非加熱のアルカリ天然水を売り出す
- ・同社の海外への出荷は現在、全体の1割未満だが、将来的に4割程度まで引き上げる計画、輸出には浜田市の国際貿易港・浜田港を使う予定

H28.7.7山陰中央新報掲載

## トピックス(3)

### 日本製紙 江津に新素材量産設備を新設

- ・日本製紙(東京都)は、植物由来の新素材「セルロースナファイバー(CNF)」の量産設備を江津事業所(江津市江津町)に設けると発表、敷地内に建屋を新設し、専用の製造ラインを設置する
- ・投資額は約11億円、2017年9月の稼働開始を予定
- ・国内の食品、化粧品メーカー向けに、当初は年間30トンを生産し、将来的には100トンまで増やす

H28.8.19山陰中央新報掲載

### 浜田港ーロシア航路 利用促進へ補助継続

- ・島根県や浜田市、経済団体などで行く浜田港ロシア貿易発展プロジェクト実行委員会が、2016年度の事業計画を決めた
- ・浜田港とロシア・ウラジオストク港とを結ぶRORO船の航路維持を目指し、運航事業者に対し、1回の寄港当たり最大20万円を助成する制度を創設
- ・航路とシベリア鉄道を使った海陸の複合一貫輸送の経費補助は引き続き実施する
- ・ロシア経済の減速などで低迷する中古車輸出対策として、2015年度に実施した浜田港までの中古車の陸送費用の支援制度も継続、2016年度は通年で中国地方の輸出入業者に1台当たり5千円、他地域の事業者には同1万円を補助する

H28.8.26山陰中央新報掲載

### 島根県企業局 江津工業団地拡張へ

- ・島根県企業局は、江津地域拠点工業団地(江津市松川町)の第2期造成に着手する方針を固めた
- ・2011年の東日本大震災後、製造業などで、災害リスク分散や生産拠点の国内回帰の動きが続いており、実際に進出の問い合わせがあることから、造成地の拡張を決めた
- ・工業用地内に新たに3区画(計13.8ha)の造成を行う計画で、2016年度中に設計に着手、本格工事は2018年度以降を見込む

H28.8.28山陰中央新報掲載

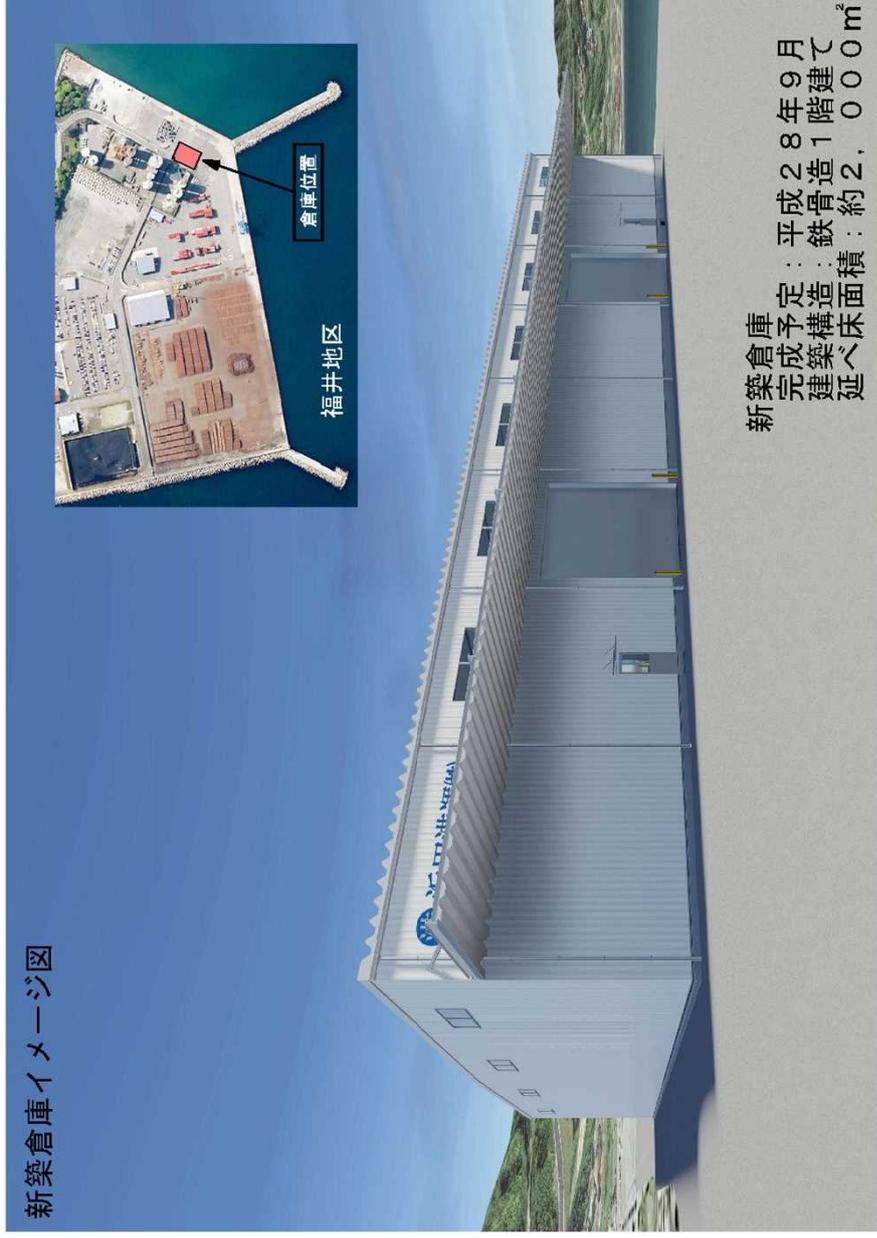
# トピックス(4)

浜田港【新築倉庫】位置図



# トピックス(5)

新築倉庫イメージ図



資料：浜田港運(株)提供資料